

2023年5月10日(水)

老球の細道729号

第69回県高等学校体育大会会津地区予選雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に移行される瀬戸際、今まで以上の観戦者を迎えて会津地区大会が開催された。男子は若松商業4年ぶり、女子は会津が2年連続優勝を果たした。私は大会中諸々の私用が入り、大会すべてを観戦することはできなかったが、各チーム共有望な新入生を迎えて、新年度初めての意気込みが十分に伝わって来た大会だった。

男子は県大会出場権を獲得した5チームが実力伯仲で非常に面白く勉強になる試合が展開された。ゲームの流れや、主力メンバーなどのファールトラブルなどで順位が変わる可能性もあった。どのチームもサイズがないために外からのシュート力や1:1ドライブに頼る攻撃が多かった。チームオフェンスをベースにした1:1や2:2コンビネーションが連続、連動したオフェンスができるようになれば、サイズの低さもある程度カバーできるようになれるのではないだろうか。そして、トランジションの速さ、ディフェンスの激しさ、スクリーンアウトからのディフェンスリバウンドは県大会に向けて絶対欠かせない戦術である。

女子は会津高校の圧勝であった。全試合100点ゲームというのは、ここ数年の地区大会においては見たこともない。今年の会津高校は女子において久しぶりに全国を狙える逸材が揃った好チームである。PGのボールキープ力と冷静な状況判断力、ビックマンが中も外も攻撃できるのが強みである。さらに走る、リバウンドにとびつく、ディフェンスなど、やり過ぎて褒められる泥臭いプレイを徹底することが全国への道とつながるだろう。この会津高校に最も点差が少なかった葵高校の活躍も素晴らしかった。人数が少ない、身長が低い中でも臆することなく果敢にドライブでインサイドに切り込む姿勢は目を見張らせられた。

ところで、今大会のプログラムを見ると、新人戦に比べて多くのチームがメンバー表を埋めていた。新入生がたくさん入部したのだろう。私が現役コーチの頃は今の時期は50人位部員がいた。スラムダンク、マイケルジョーダン、ナイキのシューズが全盛時代の頃である。部員が多くて困っていても厳しい練習で淘汰され7月頃になると半分くらいの人数になっていた。やる気のない選手と中学時代のタレントが早々と退部した。しかし今は少子化で部存続のためには貴重な1年生である。辞めさせないように宝石を愛でよう育ててほしい。

また、新入生には高校から初めてバスケットボールをする初心者もあちこちにいるようである。高校から初めてバスケットにチャレンジする生徒は相当な決意を持って入部して来ていると思う。その強い決意をリスペクトしてこれまた大事に育ててほしい。色々なことはできないかもしれないが3年の長い視野で育てれば6番手(シックスマン)の選手、スペシャリストとして成長することも可能である。

今年の県大会は会津地区が会場となる。県大会まであと2週間。地元のバスケットボール関係者、観客がしびれるようなゲームを見せられるよう準備、準備、準備あるのみである。